

神奈川県における旧石器時代の遺構（その4）

－B2層－

旧石器時代研究プロジェクトチーム

はじめに

本プロジェクトチームでは、1994年以来、県内における旧石器時代遺跡の石器群について集成・分析を実施してきた。'94年から'99年までの6回は、「…石器群の諸問題」と題して、主に出土した石器の特徴、器種・石材組成、石器製作工程等の検討を中心として層位ごとに集成し、各時期における石器群の特徴を捉えようとした。2001年度の活動からは、主に旧石器時代の遺構（住居状遺構、土坑、礫群、配石、炉跡、炭化物集中、デボなど）を層位ごとに集成し、今回で4回目となる。今年度は、相模野基本層序におけるB2層相当の遺構を集成し、当概期の特徴を把握しようと試みた。B2層の遺構としては、礫群、配石、炭化物集中、炉址等が集成され、特徴的なものとしては磨石状礫の集積遺構がみられる。今回も例年通り、以下で各遺構ごとにその特徴を述べる。

B2層出土の遺構について

a) 磫群（第1・2図）

今回集成された礫群は51遺跡62文化層より、およそ400基を数える。礫群の規模について、平面形の長軸は1m以下がおよそ21%、1m超5m以下が69%、5mを超すものが約10%存在し、長軸の平均値はおよそ2.5mを測る。短軸では、およそ7割強が2m以下で、平均値は約1.6mである。構成礫の数は、わずか2点から450点までと様々だが、100点以上の礫で構成される礫群は370例中25例とわずか7%程で、実に8割以上の礫群は50点以下の礫で構成されている。礫の大半は、赤化やススの付着といった被熱の痕跡を残し、全ての礫が焼けている例も珍しくない。使用石材では凝灰岩系が多用されており、概ね相模川水系の河床礫から無作為に用いられているものと思われる。ところが藤沢市域の慶應SFC遺跡第Ⅳ文化層や南葛野遺跡第Ⅱ文化層等の礫群では、相模川水系には比較的少ない安山岩や砂岩⁽¹⁾が偏在する例も認められ、意図的に石材選択されている場合も考えられる。

平塚市原口遺跡第Ⅱ文化層では、3地点で当概期の石器群が発見された。それぞれの地点に礫群を伴うが、本館エリアとされた地点では、およそ4180点余りの礫が出土しており、最大幅約8m×長さ約25mの範囲に帶状に分布している。報告書本文中では、視覚的に明確な5箇所の礫集中について礫群と報告しているのみで、他は付図にて礫の分布状況を掲載しているに過ぎない。海老名市柏ヶ谷長ヲサ遺跡第IX文化層⁽²⁾では、やはり3000点を超える礫が出土し、こちらは詳細な分析により礫群125基以上を認定している。これら比較的大規模な遺跡では、大量の礫が広範囲にわたって連続的に出土している状況が観察される。

b) 磨石状礫集積遺構（第3図・4図1～3）

本遺構は、県内の当概期において極めて特徴的に認められる。そこで本来ならば、配石等の中で扱われるべき遺構かもしれないが、敢えて別項目として取り上げた。今回の集成作業において、礫群あるいは配石として表に掲載されている遺構についても別表にて再度集約した（第2表）。ここでは、8遺跡⁽³⁾26事例を集

成している。本遺構は、磨石状の礫数点が、50cm内外の範囲にまとめて出土する例が多く、「磨石集積」といった捉え方も可能かもしれない。しかしながら、藤沢市慶應SFC遺跡や南葛野遺跡の報告の中では、「磨痕や擦痕等の使用痕は観察できない。」といった理由から、このような礫を亜石器と称し、磨石とは区別している。そのため、明確に磨石と判断している報告もあるが、亜石器のような礫の集積も含めてここでは「磨石状礫」の集積遺構として一括して扱った。

原口遺跡第Ⅱ文化層の1号、2号礫群は、何れも複数の磨石が密集している磨石集積である。これらの遺構は、大規模な礫集中箇所や石器集中ブロックからやや離れた外縁部に設けられている様子が認められた。柏ヶ谷長ヲサ遺跡第Ⅸ文化層の配石26・32・34等も同様に、石器集中や礫集中の外縁または空白域に位置していることが指摘されている。吉岡遺跡群C区では、破片も含めて261点もの磨石状石器が敲石、台石、石皿などと共に出土している。本遺跡では、10箇所の「磨石状石器ユニット」が報告され、それ以外にも複数のブロック内において磨石状石器の集積（集石）が捉えられた。

c) 配 石（第4図4）

本遺構は、吉岡遺跡群B区（2次）と柏ヶ谷長ヲサ遺跡のわずか2遺跡のみで、6文化層71例が報告されている。ここで集成された遺構のほぼ99%は柏ヶ谷長ヲサ遺跡の例に偏り⁽⁴⁾、その他の遺跡での発見は皆無である。これは、配石遺構に対する報告者の捉え方や見解の相違に大きく起因していることは否めない。しかしながら、ここでは報告書の記述に従って集成を行っている。

柏ヶ谷長ヲサ遺跡第Ⅷ文化層の配石1では、台石と考えられる大型の礫が、磨石状の礫2点と数点の礫を伴って密集している。この遺構は、866点の石器が集中している1号ブロックの片隅に位置しており、ある種の「作業地点を想定させる配置をみせている」としている。ただ、その他の配石遺構の多くは、礫群に伴って1ないし2点の礫が配されているに過ぎない。

d) 炭化物集中（第5図1）

炭化物集中は、9遺跡14事例を集成した。規模は、長軸1.25m～約6m、短軸0.88m～約3.5mで、各遺構毎でかなりのばらつきがある。出土状況は、石器・礫集中と重複する例、石器・礫集中とは離れている例、石器集中を取り囲むように分布する例など様々である。

e) 炉 址（第5図2）

炉址についての報告は、用田バイパス関連遺跡群大河内遺跡第Ⅶ文化層の1例のみである。本遺構は、深さ25cm程の掘り込みをもち、被熱した69点の礫を伴っていた。今回礫群の中で取り扱った、宮ヶ瀬遺跡群サザランケ遺跡第Ⅷ文化層のP3号礫群では、密集する礫の下部に浅い掘り込みをもち、多量の炭化物や焼土を伴っていた。本遺構も構造的には南原遺跡の例と極めて似ているものと思われ、炉址と捉えることも可能かもしれない。

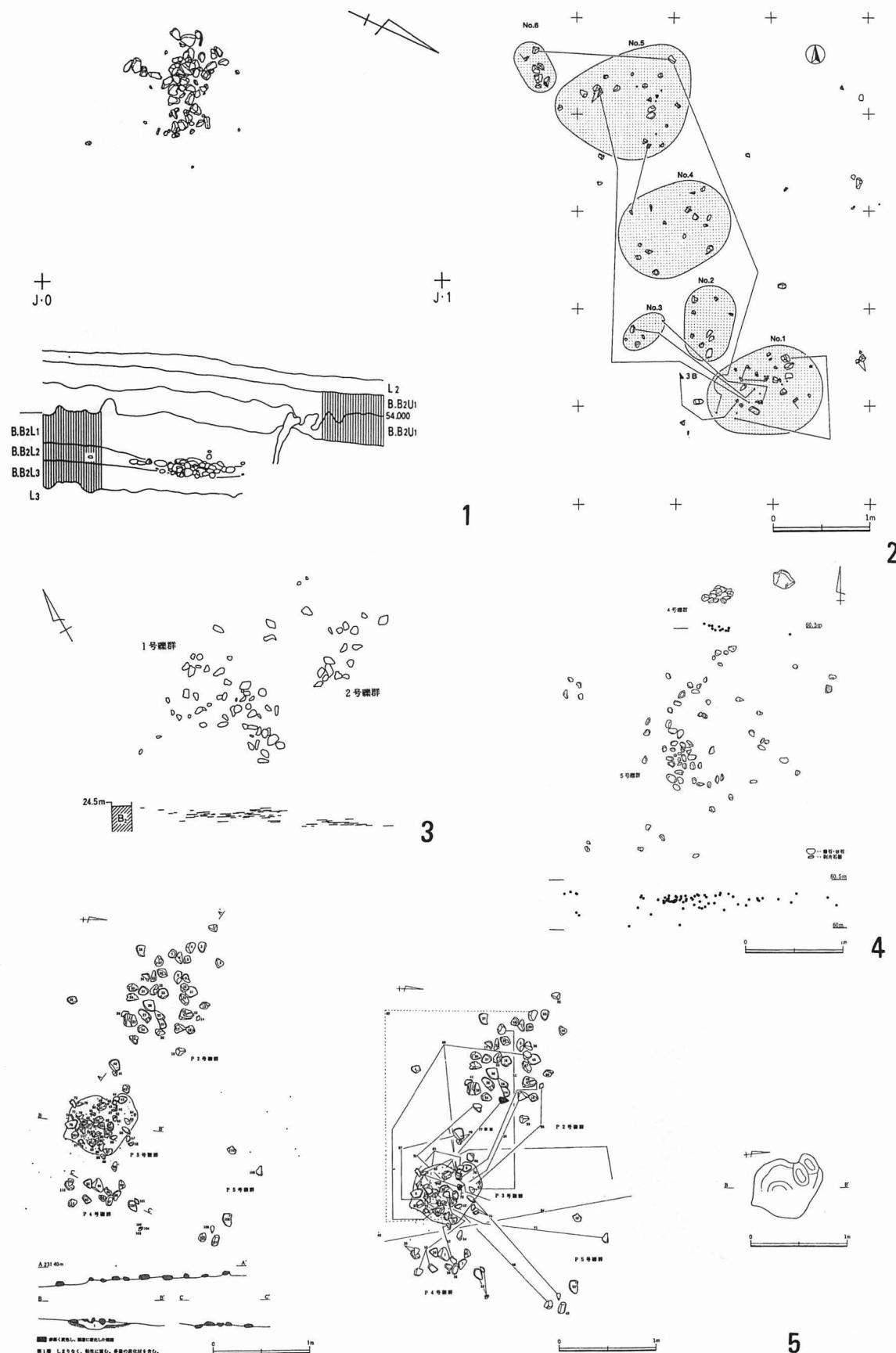
（畠中俊明）

註

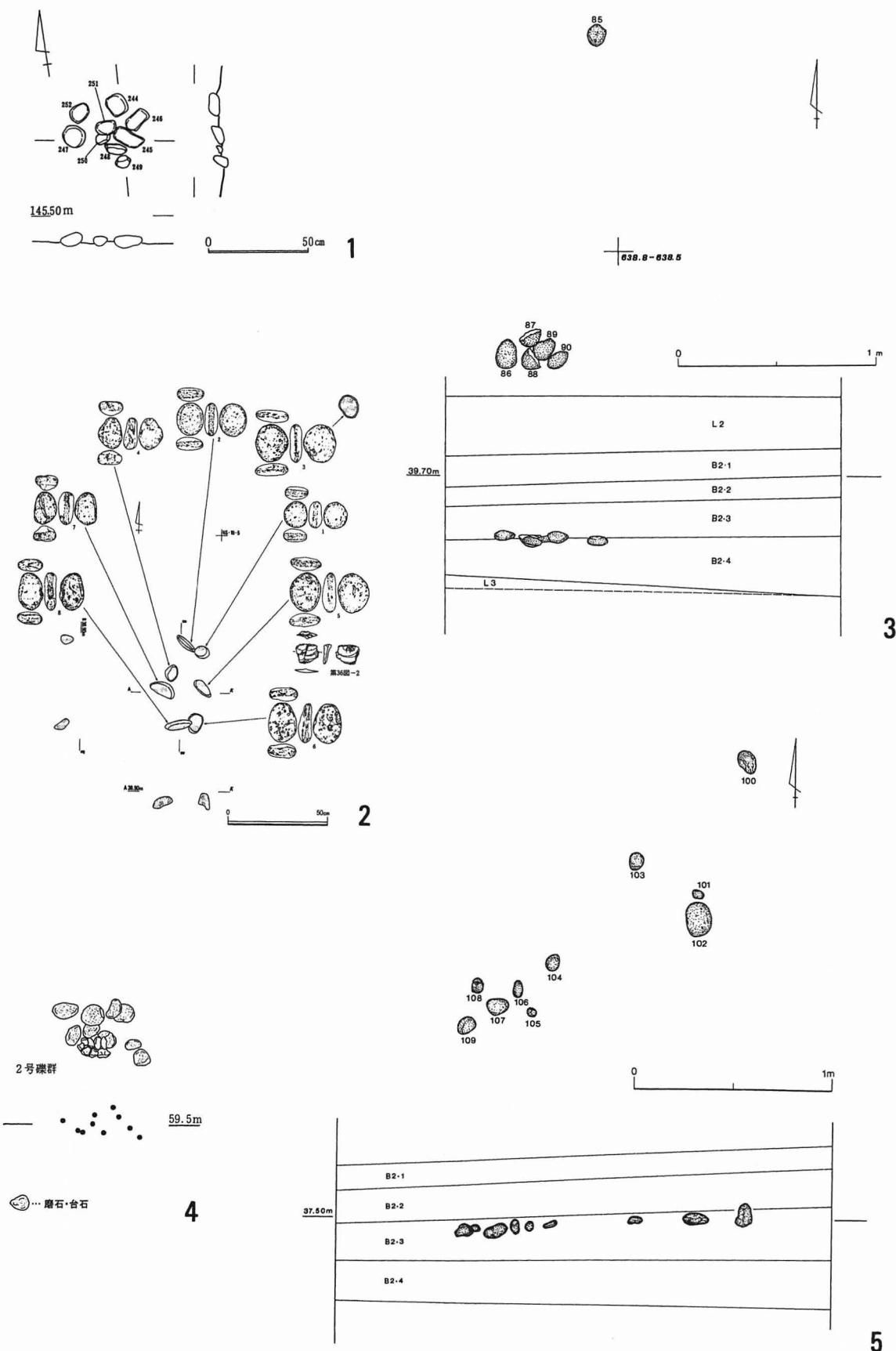
- (1) 上本進二・剣持晶子・天野賢一・柴田徹・櫻井尚美・多田敦子 1996「遺跡出土礫の採集地推定－神奈川県および周辺地域の河床礫・海浜礫と遺跡出土礫の分析－」『神奈川考古』32』の河床礫のデータを参考にした。
- (2) 柏ヶ谷長ヲサ遺跡については、データ量が膨大なため一部を除き遺構データ表は次年度以降に掲載する予定である。
- (3) 吉岡遺跡群については、各地区毎で別遺跡と捉えている。
- (4) 柏ヶ谷長ヲサ遺跡の報告において、保坂康夫氏は900g以上の礫について配石として一律に扱っている。同様の手法によって他の遺跡でも配石を抽出することは可能だと思われるが、今回は報告書の記載に従う。



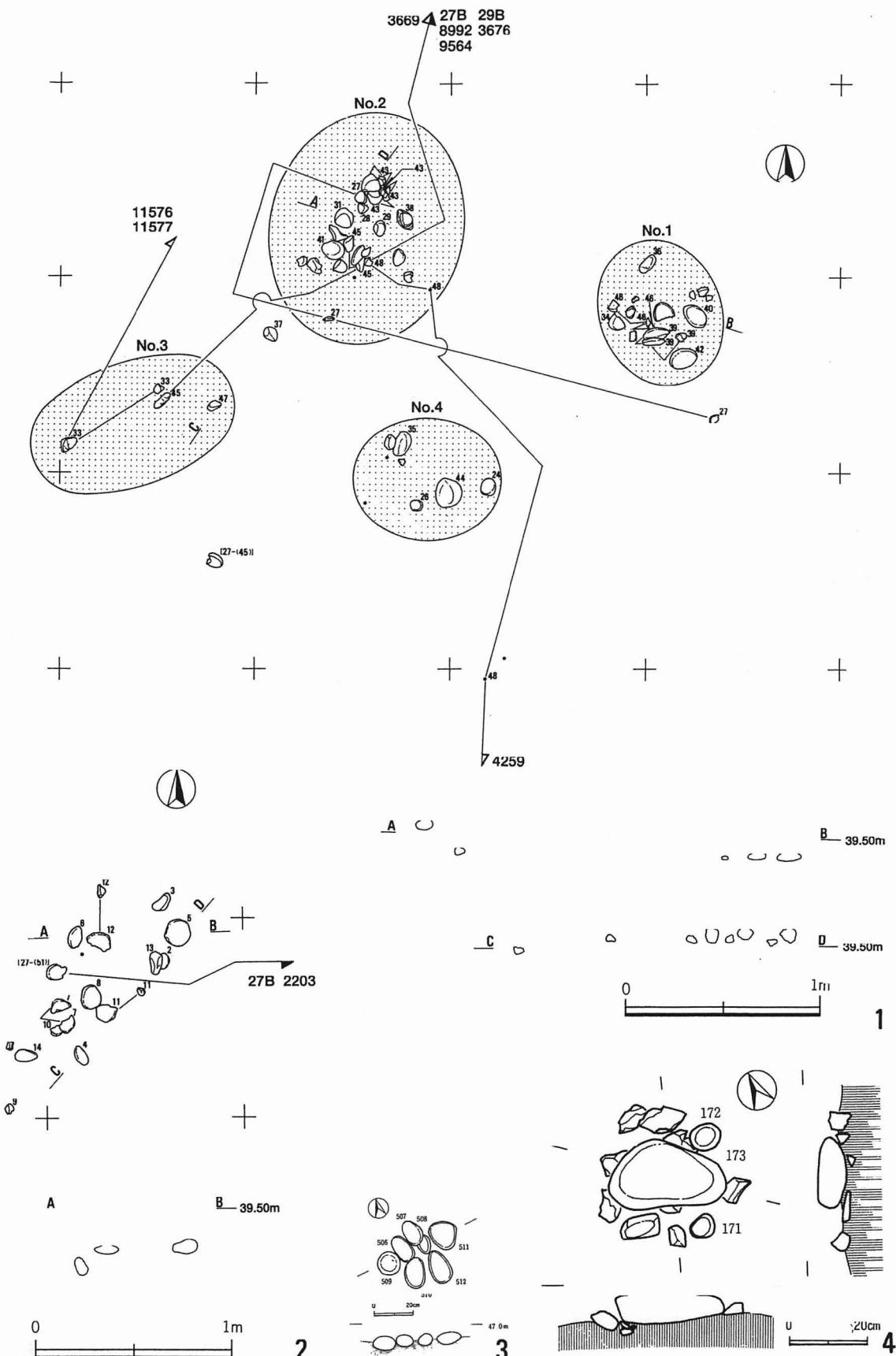
第1図 磁器群 (1.長堀南IV 1号～3号磁器群 2.橋本IV 磁器群19 3.上今泉 第1磁器群 4.柏ヶ谷長ヲサVII 磁器群
1～7、配石1～3)



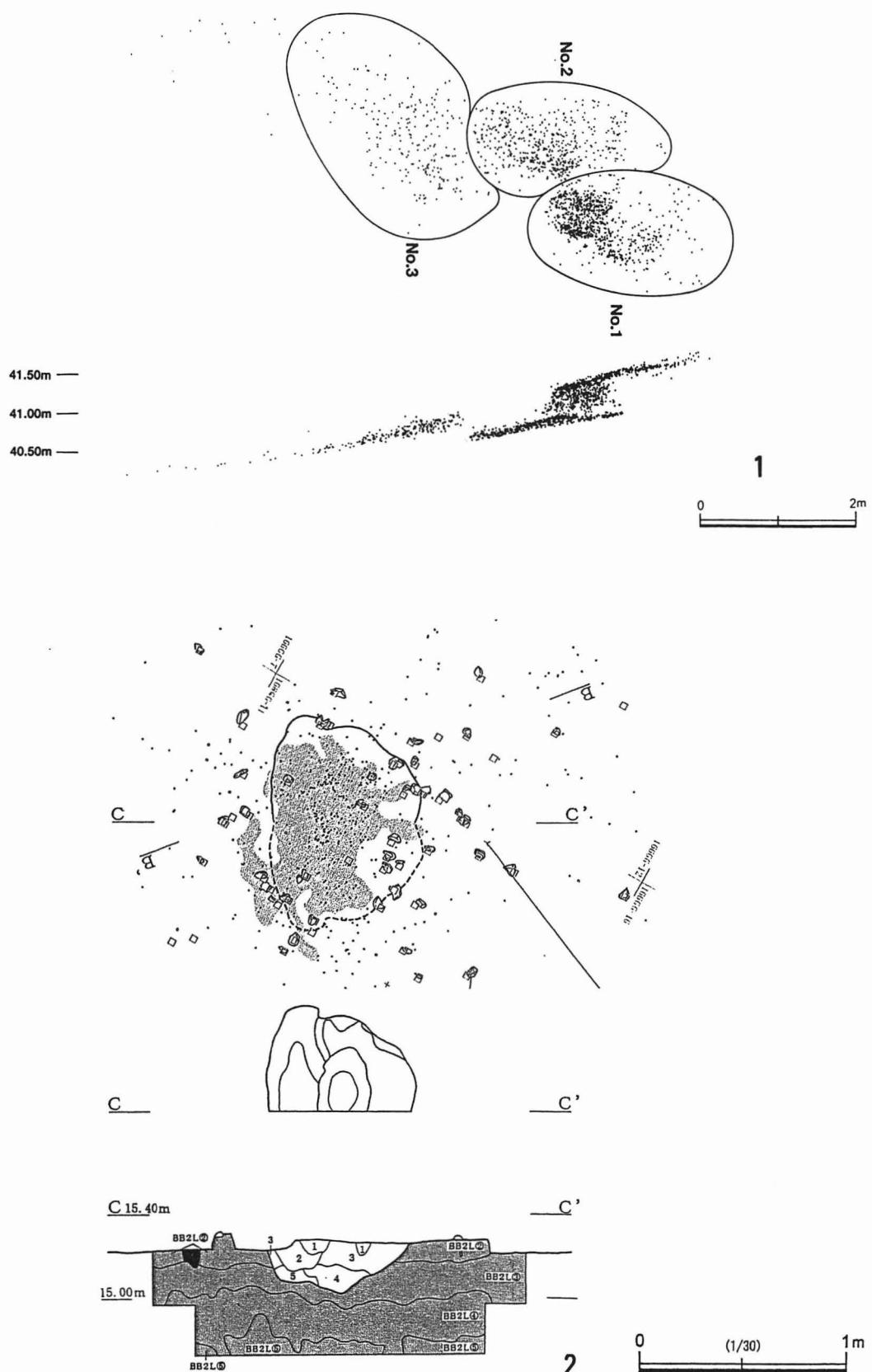
第2図 磚群 (1.かしわ台駅前V 第3号磚群 2.吉岡C区B2層 第2号磚群 3.今田IV 1~2号磚群 4.原口II 4・5号磚群 5.宮ヶ瀬サザランケVII P2~P5号磚群)



第3図 磨石状礫集積 (1.川尻V 磨石群 2.吉岡B区B2層 磨り石状礫 3.南葛野II 第1号礫群 4.原口II 2号礫群 5.南葛野II 亜石器・磨石群)



第4図 磨り石状礫集積・配石 (1.吉岡C区B2層 32ブロック磨り石状石器
器 2.吉岡C区B2層 22ブロック磨り石状石
器 3.柏ヶ谷長ヲサⅨ 配石26 4.柏ヶ谷長ヲサⅧ 配石1)



第5図 炭化物集中・炉址 (1.吉岡D区B2層 炭化物集中 2.用田大河内VI 第1号炉址)

第1表 碓群

遺跡No.	遺跡名	確認層位	文化層	遺構名	長軸(m)	短軸(m)	礫数 接合後数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備考 (共伴遺物等)
52	赤坂	BB2U		礫群							詳細未報告
73	かしわ台駅前	BB2LM	V	第1号礫群	3.00	2.70	30	分散	完形:4、破損:26、赤化:30、炭化物・スス付着:25		接合:4、第2・3号礫群との接合:3、第1ブロックと重複。
73	かしわ台駅前	BB2LM	VI	第2号礫群	1.50	1.50	42	密集	完形:12、破損:30、赤化:30、炭化物・スス付着:40		接合:17、第1号礫群との接合:1、第3号礫群との接合:11
73	かしわ台駅前	BB2LM	VI	第3号礫群	2.00	1.40	80	集中	完形:9、破損:71、赤化:80、スス付着:66		接合:13、第1号礫群との接合:2、第2号礫群との接合:12、第1ブロック(凝灰岩製の剥片:6・石核:1)と重複。
87	長堀南	BB2LU	VI	1号礫群	5.10	2.40	120	集中	赤化:117、スス:42、タール:8、完形:25破損:94	礫岩:5、砂岩:21、珪質泥岩:4、安山岩:31、閃綠岩:8、火碎岩:13、その他:1	1号ユニットと重なる。
87	長堀南	BB2LU	VI	2号礫群	0.80	0.70	8	やや集中	赤化:8、スス:6、タール:2、完形:2、破損:6	砂岩:3、泥岩:1、閃綠岩:1、火碎岩:3	
87	長堀南	BB2LU	VI	3号礫群	2.20	1.90	52	集中	赤化:52、スス:16、タール:5、完形:17、破損:35	砂岩:18、泥岩:1、安山岩:10、閃綠岩:3、火碎岩:7	
90	上和田城山	BB2U	IV	礫群	1.89	0.68	8	集中	詳細記載なし	記載なし	8点の礫以外に石核石器、敲石が伴う。ブロックあり。
90	上和田城山	BB2L	V	記載なし	2.30	1.89	8	散漫	円礫または破碎礫で被熱	記載なし	ブロックあり。
92	上草柳第2地点	BB2L	II	a礫群	5.00	4.50	不明	散漫	不明	不明	4~5にまとまる。
92	上草柳第2地点	BB2L	II	b礫群	4.50	2.20	不明	集中	火熱を受けた礫	不明	7単位に区分。
95	福田札ノ辻	BB2U	IV	第1号礫群	4.20	3.80	134	集中	赤化:36、完形:約10	凝灰岩が多く、ほかに砂岩や玄武岩。	ややまとまるところでは41点
95	福田札ノ辻	BB2U	IV	第2号礫群	3.80	3.30	53	集中	赤化:53、ヒビ:53、完形:約14	凝灰岩が多く、ほかに砂岩や玄武岩。	第1ブロックと重なる。
95	福田札ノ辻	BB2L	V	第1号礫群	2.40	2.00	297	密集	赤化:297、完形:約24	砂岩や玄武岩が多い。	第2ブロックと重なる。
95	福田札ノ辻	BB2LU	V	第2号礫群	2.00	1.60	85	密集あり	赤化:92、完形:約13	砂岩や玄武岩が多い。	第2ブロックと重なる。
95	福田札ノ辻	BB2LU	V	第3号礫群	2.10	0.70	11	散漫	赤化:11、破損:11	砂岩	本礫群の西隣に第3ブロックあり。
95	福田札ノ辻	BB2LU	V	第4号礫群	3.70	3.30	120	集中	赤化:120、完形:約8	砂岩や玄武岩が多い。	第4ブロックと重なる。
101	吉岡B区	BB2U	B2	第1号礫群	2.00	1.40	83	密集	赤化:69、スス:13、完形:7・破損:76、接合後完形:25	安山岩25、中粒凝灰岩17、硬質砂岩24、斑櫻岩8、火山礫凝灰岩4、硬質細粒凝灰岩2、Ho2、砂岩1	
101	吉岡B区	BB2L	B2	第2号礫群	0.98	0.70	73	密集	赤化:69、スス:6、完形10・破損63、接合後完形:21	安山岩21、中粒凝灰岩34、硬質砂岩5、Ho5、斑櫻岩8	
102	吉岡C区	BB2	B2	第1号礫群 1礫ブロック	6.50	3.20	8	散漫	不明	チャート1、凝灰岩3、安山岩1、Ho2、砂岩1	
102	吉岡C区	BB2	B2	第2号礫群 2礫ブロック	3.60	3.60	104	密集	不明	凝灰岩75、硬質細粒凝灰岩1、安山岩3、砂岩15、斑櫻岩9、結晶片岩1	第2石器群2石器ブロックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第2号礫群 3礫ブロック	5.90	3.40	30	散漫	不明	凝灰岩25、Hol、砂岩4	第2石器群3石器ブロックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第2号礫群 4礫ブロック	5.60	2.50	126	密集	不明	チャート2、凝灰岩87、安山岩8、Ho3、砂岩15、斑櫻岩9、結晶片岩1、石英閃綠岩1	第2石器群4石器ブロックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第2号礫群 5礫ブロック	5.30	4.30	111	密集	不明	凝灰岩54、硬質細粒凝灰岩1、安山岩32、Ho6、砂岩2、斑櫻岩15、石英1	第2石器群5石器ブロックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第2号礫群 6礫ブロック	5.10	2.60	10	散漫	不明	チャート1、凝灰岩3、安山岩4、石英閃綠岩2	第2石器群6石器ブロックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第3号礫群 7礫ブロック	2.90	2.10	14	散漫	不明	中粒凝灰岩12、安山岩2	第2石器群10石器ブロックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第3号礫群 8礫ブロック	5.80	3.60	23	散漫	不明	凝灰岩13、中粒凝灰岩2、安山岩5、砂岩1、斑櫻岩2	第2石器群11石器ブロックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第4号礫群 9礫ブロック	1.80	1.20	4	散漫	不明	凝灰岩3、斑櫻岩1	
102	吉岡C区	BB2	B2	第5号礫群 10礫ブロック	1.30	0.70	4	散漫	不明	凝灰岩3、斑櫻岩1	

遺跡 No.	遺跡名	確認層位	文化層	遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	礫数 接合後数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備考 (共伴遺物等)
102	吉岡C区	BB2	B2	第5礫群 11礫ブロック	8.80	7.20	105	集中	不明	凝灰岩57、硬質細粒凝灰岩1、 流紋岩質凝灰岩1、頁岩1、安 山岩5、Ho13、砂岩20、斑櫛 岩7	第5石器群18石器ブロ ック、一部19石器ブ ロックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第5礫群 12礫ブロック	5.60	4.60	33	散漫	不明	凝灰岩19、中粒凝灰岩1、Ho7、 砂岩2、斑櫛岩4	第5石器群19石器ブロ ックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第5礫群 13礫ブロック	5.30	3.90	62	散漫	不明	凝灰岩28、火山礫凝灰岩1、中 粒凝灰岩1、安山岩8、Ho7、 砂岩12、斑櫛岩3、結晶片岩2	第5石器群19石器ブロ ックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第5礫群 14礫ブロック	4.00	2.60	22	散漫	不明	凝灰岩16、安山岩3、斑櫛岩3	第5石器群19石器ブロ ックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第5礫群 15礫ブロック	1.30	0.60	6	散漫	不明	凝灰岩2、Ho1、砂岩1、斑櫛 岩2	第5石器群20石器ブロ ックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第5礫群 16礫ブロック	10.50	7.20	35	散漫	不明	凝灰岩10、硬質細粒凝灰岩1、 中粒凝灰岩1、流紋岩質凝灰岩 1、安山岩11、Ho6、砂岩2、 斑櫛岩3	第5石器群20石器ブロ ックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第5礫群 17礫ブロック	3.60	3.20	30	散漫	不明	火山礫凝灰岩2、中粒凝灰岩8、 安山岩7、斑櫛岩4、石英閃綠 岩9	第5石器群20石器ブロ ックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第5礫群 18礫ブロック	7.80	7.20	52	集中	不明	チャート1、凝灰岩12、粗粒凝 灰岩1、硬質細粒凝灰岩3、中 粒凝灰岩18、Ho2、砂岩7、斑 櫛岩6、石英2	第5石器群21石器ブロ ックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第5礫群 19礫ブロック	6.00	4.80	6	散漫	不明	凝灰岩3、砂岩1、斑櫛岩2	第5石器群26石器ブロ ックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第5礫群 20礫ブロック	2.60	2.20	67	密集	不明	凝灰岩11、火山礫凝灰岩2、中 粒凝灰岩7、流紋岩質凝灰岩2、 安山岩17、Ho3、砂岩7、斑櫛 岩18	第5石器群26石器ブロ ックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第5礫群 21礫ブロック	1.90	1.60	117	密集	不明	凝灰岩64、硬質細粒凝灰岩1、 中粒凝灰岩8、流紋岩質凝灰岩 3、安山岩5、Ho6、砂岩14、 斑櫛岩16	第5石器群26石器ブロ ックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第5礫群 22礫ブロック	2.60	1.10	29	集中	不明	凝灰岩19、安山岩3、Ho2、砂 岩4、斑櫛岩1	第5石器群26石器ブロ ックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第5礫群 23礫ブロック	7.60	6.00	71	集中	不明	凝灰岩41、中粒凝灰岩6、流紋 岩質凝灰岩2、安山岩4、Ho3、 砂岩2、斑櫛岩11、輝綠岩1、 泥岩1	第5石器群27石器ブロ ックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第5礫群 24礫ブロック	2.40	0.60	3	散漫	不明	凝灰岩1、流紋岩質凝灰岩1、 安山岩1	第5石器群27石器ブロ ックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第5礫群 25礫ブロック	5.20	2.50	76	集中	不明	凝灰岩34、中粒凝灰岩6、安山 岩8、Ho12、砂岩10、斑櫛岩5、 輝綠岩1	第5石器群28石器ブロ ックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第5礫群 26礫ブロック	5.50	2.00	15	散漫	不明	凝灰岩8、中粒凝灰岩1、安山 岩5、輝綠岩1	第5石器群31石器ブロ ックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第5礫群 27礫ブロック	4.40	4.40	11	散漫	不明	凝灰岩7、斑櫛岩4	第5石器群24石器ブロ ックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第5礫群 28礫ブロック	4.90	2.40	10	散漫	不明	凝灰岩8、砂岩1、斑櫛岩1	第5石器群30石器ブロ ックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第5礫群 29礫ブロック	3.20	1.80	3	散漫	不明	凝灰岩1、安山岩1、砂岩1	第5石器群30石器ブロ ックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第5礫群 30礫ブロック	2.40	1.70	6	散漫	不明	凝灰岩2、安山岩2、斑櫛岩2	第5石器群31石器ブロ ックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第5礫群 31礫ブロック	7.10	4.30	65	密集	不明	凝灰岩12、硬質細粒凝灰岩1、 中粒凝灰岩2、安山岩42、砂岩 3、輝綠岩2、石英3	第5石器群32石器ブロ ックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第5礫群 32礫ブロック	10.40	6.80	12	散漫	不明	凝灰岩6、硬質中粒凝灰岩2、 安山岩4	第5石器群33・34石器ブロ ックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第6礫群 33礫ブロック	5.00	4.50	31	集中	不明	凝灰岩10、硬質細粒凝灰岩2、 安山岩3、Ho1、砂岩8、斑櫛 岩3、輝綠岩2、石英閃綠岩1、 石英1	第6石器群35石器ブロ ックと重複。
102	吉岡C区	BB2	B2	第6礫群 34礫ブロック	5.00	3.00	87	密集	不明	凝灰岩4、粗粒凝灰岩1、硬質 細粒凝灰岩7、火山礫凝灰岩1、 中粒凝灰岩22、硬質中粒凝灰 岩3、安山岩9、Ho2、砂岩23、 硬質砂岩2、斑櫛岩8、輝綠岩2、 石英閃綠岩1、石英2	第6石器群36石器ブロ ックと重複。

遺跡 No.	遺跡名	確認層位	文化層	遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	礫数 接合後数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備考 (共伴遺物)
103	吉岡D区	BB2	B2	第1礫群 1礫ブロック	8.00	6.00	74	密集	不明	硬質細粒凝灰岩7、火山礫凝灰岩2、中粒凝灰岩22、安山岩11、Ho12、硬質砂岩5、斑縞岩12、輝緑岩1、結晶片岩2	第1石器群1石器ブロックと重複。
103	吉岡D区	BB2	B2	第2礫群 2礫ブロック	7.00	4.00	3	散漫	不明	チャート1、中粒凝灰岩1、輝緑岩1	第3石器群5石器ブロックと重複。
107	今田	BB2U	IV	1号礫群	1.50	1.40	54 (50)	密集	赤化：55、スス：16、タール：2、完形：33・破損：17	砂岩16、火碎岩2、チャート7、閃緑岩6、安山岩2、凝灰岩1、その他4	BB2層は、基本土層のX層1枚のみと判断されている。本文化層中からは礫群2基のみが出土。各項目中の礫の数量は接合後の数量。
107	今田	BB2U	IV	2号礫群	1.20	1.20	21 (19)	密集	赤化：21、スス：11、タール：1、完形：6・破損：13	砂岩12、チャート2、火碎岩2、凝灰岩2、その他1	
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中1	—	—	43	—	完形：8・破損：35		石器集中Aと重複。
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中2	—	—	16	—	完形：2・破損：14		石器集中Eと重複。
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中3	—	—	18	—	完形：3・破損：15		石器集中Gと重複。
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中4	—	—	6	—	完形：2・破損：4		
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中5	—	—	20	—	完形：1・破損：19		
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中6	—	—	8	—	完形：0・破損：8		
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中7	—	—	5	—	完形：1・破損：4		
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中8	—	—	5	—	完形：2・破損：3		
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中9	—	—	32	—	完形：4・破損：28		石器集中Jと重複。
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中10	—	—	5	—	完形：0・破損：5		
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中11	—	—	6	—	完形：3・破損：3		
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中12	—	—	12	—	完形：2・破損：10		石器集中Kと重複。
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中13	—	—	21	散漫	完形：11・破損：10		石器集中Mと重複。
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中14	—	—	12	やや密集	完形：4・破損：8		石器集中Lと重複。
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中15	—	—	6	やや密集	完形：2・破損：4		
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中16	—	—	47	密集	完形：7・破損：40		
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中17	—	—	11	やや密集	完形：3・破損：8		石器集中Nと重複。
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中18	—	—	13	散漫	完形：6・破損：7		石器集中Oと重複。
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中19	—	—	4	散漫	完形：1・破損：3		
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中20	—	—	19	散漫	完形：7・破損：12		石器集中Pと重複。
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中21	—	—	36	密集	完形：15・破損：21		
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中22	—	—	44	密集	完形：20・破損：24		石器集中Qと重複。
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中23	—	—	11	やや密集	完形：5・破損：6		
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中24	—	—	18	やや密集	完形：4・破損：14		
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中25	—	—	4	やや密集	完形：2・破損：2		
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中26	—	—	25	—	完形：4・破損：21		
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中27	—	—	2	—	完形：0・破損：2		
109	代官山	BB2UL	VI	礫集中28	—	—	2	—	完形：0・破損：2		
111	南鍛冶山	L2L ～ BB2U	—	遺物集中部 0501	9.50	7.50	132 (72)	やや密集	赤化：101、スス：3、タール：8	凝灰岩39、砂岩26、安山岩19、頁岩17、ホルンフェルス11、火山礫凝灰岩5、玄武岩5、閃緑岩5、シルト岩2、輝緑凝灰岩2、流紋岩1	※本遺跡の層位は不確定である可能性が指摘（以下同じ）。石器集中と重複。分布は、部分的に極めて密集する。
111	南鍛冶山	BB2U	—	遺物集中部 0503内 R01	1.40	1.20	6 (5)	やや密集	赤化：9、スス：0、タール：1	頁岩6、砂岩4、凝灰岩2、玄武岩1	R01とR02を合わせた分布範囲は、南北7.0m、東西3.6m。
111	南鍛冶山	BB2U	—	遺物集中部 0503 R02	1.60	1.60	7 (6)	やや密集			
111	南鍛冶山	BB2U	—	遺物集中部 0701	南北 4.0	東西 1.9	55 (40)	やや密集	赤化：42、スス：0、タール：7	硬砂岩19、ホルンフェルス7、凝灰岩7、珪質頁岩6、玄武岩5、輝緑凝灰岩3、斑縞岩3、安山岩2、火山礫凝灰岩2、泥岩1	石器類は南寄り、礫は北・中央東・南西の3ヶ所に分布。北に凝灰岩、中央東に硬砂岩、南西にその他の石材が分布。
116	南葛野	L2U	II	第12号拡張区内 第1号礫集中部	1.10	1.10	24	やや密集	赤化：21、黒色付着物：12、ほぼ完形：1・破損：23	凝灰岩17、安山玄武岩4、千枚岩2、ヒン岩1	同拡張区内の第2・3号礫集中部とは時期が異なる。接合は本集中部内に限定され、5例確認。分布は、同拡張区第1号石器集中部と重複。

遺跡 No.	遺跡名	確認層位	文化層	遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	礫数 接合後数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備考 (共伴遺物等)	
116	南葛野	L2U ～ BB2U	II	第12号拡張区内 第2号礫集中部	10.00	7.00	450	密集	赤化: 287、黒色付着物: 267、完形: 26 (ほぼ完形5点を含む)・破損: 424	凝灰岩101、頁岩73、安山玄武岩63、シルト岩53、安山岩44、砂岩21、玄質安山岩16、黒色頁岩14、泥岩14、玄武岩12、輝緑岩7、閃緑岩6、珪質頁岩5、火山凝灰岩5、珪質凝灰岩4、硬砂岩4、細粒閃緑岩3、輝石安山岩2、玄武安山岩1、チャート1、浮石凝灰岩1	分布は、同拡張区第1・3号石器集中部とほぼ重複。接合は49例確認（同拡張区内の第3号礫集中部とも接合関係あり）。	
116	南葛野	L2 ～ BB2U	II	第12号拡張区内 第3号礫集中部	5.00	1.00	66	やや密集	赤化: 35、黒色付着物: 38、破損: 59	凝灰岩24、安山玄武岩20、玄質安山岩3、頁岩2、シルト岩2、ヒン岩2、玄武岩1、細粒閃緑岩1、安山岩1、輝緑岩1、珪質頁岩1、砂岩1、不明?7	分布は、同拡張区第4号石器集中部とほぼ重複。調査区外に分布が広がる可能性あり。接合は5例確認（同拡張区内の第2号礫集中部とも接合関係あり）。	
116	南葛野	BB2L (BB2-3 ～4)	II	第13号拡張区内 第1号礫集中部	0.37	0.21	6	密集	完形: 4・破損: 2	玄質安山岩5、安山岩1	出土石器は全て「亜石器」と分類。接合は集中地点外出土遺物を介し、同拡張区第3号礫集中部出土資料との間で確認。	
116	南葛野	BB2U ～ BB2M	II	第13号拡張区内 第2号礫集中部	1.35	1.35	7	やや密集	赤化: 7、黒色付着物: 2、完形: 1・破損: 6	安山岩6、砂岩1		
116	南葛野	BB2U ～ BB2M	II	第13号拡張区内 第3号礫集中部	1.40	0.80	6	やや密集	赤化: 6、黒色付着物: 5、完形: 1・破損: 5	安山岩5、凝灰岩1	接合は集中地点外出土遺物を介し、同拡張区第1号礫集中部出土資料との間で確認。	
116	南葛野	BB2U ～ BB2M	II	第13号拡張区内 第4号礫集中部	1.40	1.35	16	密集	赤化: 6、黒色付着物: 3・破損: 16	安山岩16	調査区外に分布が広がる可能性あり。	
116	南葛野	L2LL ～ BB2U (BB2-1)	II	第15号拡張区内 第1号礫集中部	1.80	1.60	34?	(本文中 は33点)	密集	赤化: 20、黒色付着物: 27、完形: 3 (ほぼ完形2点を含む)・破損: 31	安山岩27、凝灰岩2、頁岩2、泥岩2、砂岩1	
116	南葛野	L2LL ～ BB2U (BB2-1)	II	第15号拡張区内 第2号礫集中部	3.40	2.40	32?	(本文中 は33点)	やや密集	赤化: 14、黒色付着物: 18、完形: 11 (ほぼ完形2点を含む)・破損: 21	安山岩17、玄質安山岩9、凝灰岩4、頁岩2	9点の亜石器群を含む。亜石器群の出土層位はBB2層中部(BB2-3層)で、時期が異なる可能性あり。
118	慶應SFC	L2LL	IV	第1調査区内 第1号礫集中部	5.80	5.40	86	密集	焼成痕: 59、赤化: 8、黒色付着物: 59、完形: 6 (ほぼ完形4点を含む)・破損: 80	凝灰岩37、珪質泥岩10、安山岩8、硬砂岩7、シルト岩4、頁岩4、砂岩4、玄武岩3、火山礫凝灰岩3、珪質頁岩2、斑鷺岩1、花崗閃緑岩1、泥岩1、玢岩1	分布は同区第1号石器集中部と重複。	
118	慶應SFC	L2M	IV	第4調査区内 第1号礫集中部	4.60	4.60	24	やや散漫	焼成痕: 23、赤化: 12、黒色付着物: 21、ほぼ完形: 2・破損: 22	凝灰岩15、泥岩5、火山礫凝灰岩2、砂岩1、頁岩1	部分的に密集する箇所も存在。	
118	慶應SFC	L2LL	IV	第4調査区内 第2号礫集中部	5.00	5.00	24	散漫	焼成痕: 11、赤化: 3、黒色付着物: 13、完形: 0・破損: 24	凝灰岩8、泥岩5、砂岩5、安山岩5、火山礫凝灰岩1	北西部に分布が広がる可能性あり。同区第4号礫集中部と接合関係あり。	
118	慶應SFC	L2LL	IV	第4調査区内 第3号礫集中部	4.40	2.20	7	散漫	焼成痕: 5、赤化: 2、黒色付着物: 5・破損: 7	凝灰岩3、砂岩2、シルト岩2	同区第4号礫集中部と接合関係あり。	
118	慶應SFC	BB2UU	IV	第4調査区内 第4号礫集中部	4.60	4.40	46	やや密集	焼成痕: 18、赤化: 2、黒色付着物: 20、完形: 1・破損: 45	砂岩14、凝灰岩13、火山礫凝灰岩10、泥岩4、安山岩2、シルト岩2、閃緑岩1	分布は同区第1号石器集中部と重複。同区第2・3号礫集中部と接合関係あり。	
118	慶應SFC	L2M	IV	第6調査区内 第1号礫集中部	2.80	2.40	8	密集	焼成痕: 3、赤化: 1、黒色付着物: 3、完形: 0・破損: 8	硬砂岩7、凝灰質頁岩1	同区第4号礫集中部と接合関係あり。	
118	慶應SFC	L2L ～ BB2U	IV	第6調査区内 第2号礫集中部	4.40	2.80	43	密集	焼成痕: 23、赤化: 5、黒色付着物: 19、完形: 3 (ほぼ完形1点を含む)・破損: 40	安山岩23、玄武岩質安山岩12、閃緑岩4、凝灰岩1、火山礫凝灰岩1、花崗閃緑岩1、玢岩1	平面分布は東西2箇所に細分可能。亜石器10点を含む。	
118	慶應SFC	L2L ～ BB2U	IV	第6調査区内 第3号礫集中部	2.80	2.00	3	散漫	焼成痕: 0、赤化: 0、黒色付着物: 0、完形: 0・破損: 3	安山岩2、硬砂岩1		
118	慶應SFC	L2LL	IV	第6調査区内 第4号礫集中部	3.00	3.00	12	密集	焼成痕: 7、赤化: 7、黒色付着物: 2、完形: 0・破損: 12	安山岩9、泥岩1、砂岩1、硬砂岩1	平面分布は南西部の密集部と北東部のまとまりに分かれる。	

遺跡 No.	遺跡名	確認層位	文化層	遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	礫数 接合後数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備考 (共伴遺物等)
118	慶應SFC	L2L ～ BB2U	IV	第6調査区内 第5礫集中部	4.20	3.80	27	やや 密集	焼成痕：15、赤化：10、黒色付着物：11、完形：4 (ほぼ完形1点を含む)・破損：23	凝灰岩10、安山岩7、玄武岩質安山岩6、火山礫凝灰岩2、泥岩1、硬砂岩1	分布は同区第3石器集中部と重複。本集中部内南側に密集部あり。亜石器6点を含む。
118	慶應SFC	L2L ～ BB2U	IV	第6調査区内 第6礫集中部	7.20	5.00	46	やや 密集	焼成痕：22、赤化：8、黒色付着物：16、完形：6 (ほぼ完形4点を含む)・破損：40	砂岩13、泥岩10、安山岩9、閃緑岩6、玄武岩質安山岩5、ホルンフェルス2、凝灰岩1	分布は同区第4石器集中部と重複するが、石器と礫の分布には偏りが見られる。同区第2石器集中部、第8・9礫集中部と接合関係あり。集中地点間接合資料はいずれも亜石器。
118	慶應SFC	BB1L ～ L2U	IV	第6調査区内 第7礫集中部	2.20	2.00	5	密集	焼成痕：0、赤化：0、黒色付着物：0、完形：0・破損：5	泥岩3、凝灰岩1、閃緑岩1	亜石器1点を含む。
118	慶應SFC	L2L ～ BB2U	IV	第6調査区内 第8礫集中部	5.80	4.20	48	やや 散漫	焼成痕：21、赤化：12、黒色付着物：16、完形：8 (ほぼ完形5点を含む)・破損：31	砂岩14、安山岩10、泥岩7、硬砂岩3、玄武岩質安山岩4、玢岩1	分布は南北に分かれ。亜石器4点を含む。各種データ収集は、48点中39点分について実施。
118	慶應SFC	BB2U	IV	第6調査区内 第9礫集中部	7.80	7.60	206	やや 密集	焼成痕：95、赤化：69、黒色付着物：66、完形：29 (ほぼ完形9点を含む)・破損：168・不明2	安山岩81、砂岩37、泥岩36、玄武岩質安山岩17、凝灰岩8、閃緑岩6、角閃石安山岩4、玄武岩3、頁岩2、ホルンフェルス2、硬砂岩1、閃緑岩質斑縞岩1、泥砂岩1	分布は同区第6～8石器集中部と重複。西北部と西南部に密集部あり、亜石器17点を含む。各種データ収集は、206点中199点分について実施。
118	慶應SFC	L2L ～ BB2UL	IV	第6調査区内 第10礫集中部	6.20	3.60	26	やや 散漫	焼成痕：14、赤化：14、黒色付着物：14、完形：5 (ほぼ完形2点を含む)・破損：21	砂岩9、安山岩7、泥岩4、凝灰岩2、玄武岩質安山岩2、閃緑岩1、硬砂岩1	分布は同区第9石器集中部と重複。分布は南北に広がり、3箇所のまとまりに細分可。亜石器2点を含む。同区第8・9・17礫集中部と接合関係あり。
118	慶應SFC	BB2UL L	IV	第6調査区内 第11礫集中部	2.60	2.20	4	やや 密集	焼成痕：3、赤化：2、黒色付着物：2、完形：0・破損：4	安山岩3、泥岩1	
118	慶應SFC	BB2UL L	IV	第6調査区内 第12礫集中部	2.20	2.20	4	やや 密集	焼成痕：3、赤化：2、黒色付着物：3、完形：0・破損：4	安山岩2、玢岩2	同区第13礫集中部と接合関係あり。
118	慶應SFC	BB2UL ～ BB2LU	IV	第6調査区内 第13礫集中部	5.80	4.30	68	やや 密集	焼成痕：55、赤化：32、黒色付着物：55、完形：14 (ほぼ完形10点を含む)・破損：54	安山岩21、泥岩13、硬砂岩11、砂岩8、頁岩4、凝灰岩3、玢岩3、玄武岩質安山岩2、溶結凝灰岩1、閃緑岩1、不明1	分布は中央部に密集部を持ち東西に広がる。亜石器2点を含む。同区第12礫集中部・第15礫集中部近辺出土資料とも接合関係あり。
118	慶應SFC	BB2U とBB2L の境界	IV	第6調査区内 第14礫集中部	3.60	2.20	5	散漫	焼成痕：0、赤化：0、黒色付着物：0、完形：0・破損：5	安山岩2、玄武岩質安山岩2、泥岩1	亜石器2点を含む。同区第18礫集中部・本集中部外の北西部出土亜石器と接合関係あり。
118	慶應SFC	L2LL	IV	第6調査区内 第15礫集中部	2.20	2.20	3	密集	焼成痕：2、赤化：1、黒色付着物：2、完形：0・破損：3	凝灰岩3	分布は同区第10石器集中部と重複。同区第16礫集中部と接合関係あり。
118	慶應SFC	L2L ～ B2U	IV	第6調査区内 第16礫集中部	4.60	3.40	10	散漫	焼成痕：8、赤化：0、黒色付着物：1、完形：2・破損：8	玄武岩質安山岩6、安山岩1、硬砂岩1、凝灰岩1、チャート1	分布は同区第10石器集中部と重複。亜石器7点を含む。同区第15礫集中部と接合関係あり。
118	慶應SFC	L2～ BB2L	IV	第6調査区内 第17礫集中部	3.40	2.80	11	やや 散漫	焼成痕：8、赤化：5、黒色付着物：5、完形：0・破損：11	硬砂岩3、安山岩3、凝灰岩2、泥岩1、玢岩1、玄武岩1	分布は同区第11石器集中部と重複。同区第10・18礫集中部と接合関係あり。
118	慶應SFC	L2L ～ B2UU	IV	第6調査区内 第18礫集中部	4.20	4.00	41	やや 密集	焼成痕：19、赤化：16、黒色付着物：20、完形：7 (ほぼ完形1点を含む)・破損：34	安山岩10、泥岩9、砂岩6、玄武岩質安山岩5、硬砂岩4、玢岩3、閃緑岩2、玄武岩1、不明1	分布は同区第12石器集中部と重複。亜石器6点を含む。同区第14・17礫集中部と接合関係あり。
120	川尻	B2UU ～ B2ML	V	1号礫群	5.90	1.80	61	集中	赤化：ほとんど、タール：3、完形：0・破損：61	粗粒凝灰岩45、石英安山岩6、流紋岩4、凝灰質砂岩2、凝灰質頁岩2、不明2	礫の重量：1370.0～0.8g、接合点数：17
120	川尻	B2UL ～ B2LU	V	2号礫群	5.00	5.00	63	集中	赤化：ほとんど、スス、タール：7、完形：3・破損：60	粗粒凝灰岩58、凝灰質頁岩3、凝灰質砂岩1、石英安山岩1	礫の重量：2280.0～2.1g、接合点数：23

遺跡 No.	遺跡名	確認層位	文化層	遺構名	長軸 (m)	短軸 (m)	礫数 接合後数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備考 (共伴遺物等)
120	川尻	BB2ML ～L2L	V	3号礫群	4.20	3.00	89	集中	赤化：ほとんど、 スス・タール：11、 完形：0・破損：89	粗粒凝灰岩80、流紋岩9	礫の重量：276.1～ 1.8g、接合点数：18
120	川尻	B2UU ～ B2UL	V	4号礫群	2.40	2.10	7	散漫	—	—	—
128	宮ヶ瀬サザラン ヶ	BB2U	VII	P2号礫群	1.20	0.80	41 39	集中	赤化：38・スス：26・ ヒビ：28、完形：7、 破損：34	中粒凝灰岩16、安山岩11、粗 粒凝灰岩10、斑櫛岩2、玄武岩 1	P3号礫群と接合関係 をもつ。
128	宮ヶ瀬サザラン ヶ	BB2U	VII	P3号礫群	0.80	0.60	123 34	密集	赤化：33・スス：26・ ヒビ：16、完形：6、 破損：117	中粒凝灰岩10、安山岩12、粗 粒凝灰岩5、斑櫛岩3、火山礫 凝灰岩2、石英閃緑岩1	浅い掘込みをもち、 焼土を伴う。P2・4・ 5号礫群と接合関係を もつ。
128	宮ヶ瀬サザラン ヶ	BB2U	VII	P4号礫群	0.80	0.40	23 13	集中	赤化：13・スス：11・ ヒビ：12、完形：3、 破損：20	中粒凝灰岩4、安山岩5、粗粒 凝灰岩1、斑櫛岩2、火山礫凝 灰岩1	P3号礫群と接合関係 をもつ。
128	宮ヶ瀬サザラン ヶ	BB2U	VII	P5号礫群	1.00	0.30	19 9	散漫	赤化：6・スス：4・ヒ ビ：3、完形：0、破 損：19	中粒凝灰岩3、安山岩3、粗粒 凝灰岩2、石英閃緑岩1	P3号礫群と接合関係 をもつ。
171	原口（温室A）	BB2LU U	II	礫集中			104	集中	完形：6、破碎：91、 不明：7被熱：74	中粒凝灰岩など	ブロック重複
170	原口（本館）	BB2 相当	II	—	—	—	4185				1～5号礫群含む
171	原口（本館）	BB2 相当	II	1号礫群			24	集中	完形：6、破碎：9、 不明：9、被熱：6	安山岩、中粒凝灰岩など	台石：1、磨石：7、 剥片：6、残核：1
171	原口（本館）	BB2 相当	II	2号礫群			10	密集	完形：9、破損：1、安山岩		磨石：10 磨り石集積
171	原口（本館）	BB2 相当	II	3号礫群			30		完形：8、破碎：18、 不明：4、被熱：24	安山岩・中粒凝灰岩など	磨石：2
171	原口（本館）	BB2 相当	II	4号礫群			13	密集	完形：4、破碎：5、 不明4、被熱：8	火山礫凝灰岩、粗粒凝灰岩、 中粒凝灰岩、安山岩	台石：1
171	原口（本館）	BB2 相当	II	5号礫群			66	集中	完形：12、破碎： 51、不明：3、被 熱：62	中粒凝灰岩	磨石：1
171	原口（温室C・D）	BB2 相当	II	礫集中			377		完形：19、破碎： 296、被熱：308	安山岩、細粒安山岩、硬質細 粒凝灰岩、中粒凝灰岩、砂岩	7～9箇所の集中地点 存在。
176	相模野No.121	BB2U									BB2U20cm下位に検出
185	高座渋谷団地内	BB2UL	V	第1号礫群	4.60	4.00	126	集中	赤化：126、完形：4	不明	
185	高座渋谷団地内	BB2UL	V	第2号礫群	4.00	2.50	68	集中	赤化：68、破損：68	不明	
185	高座渋谷団地内	BB2UL	V	第3号礫群	3.40	1.40	48	集中	赤化：48、破損：48	不明	
185	高座渋谷団地内	BB2UL	V	第4号礫群	4.40	2.80	43	集中	赤化：43、完形：2	不明	
185	高座渋谷団地内	BB2UL	V	第5号礫群	5.00	2.10	37	集中	赤化：37、破損：37	不明	
185	高座渋谷団地内	BB2UL	V	第6号礫群	3.00	2.40	34	やや 集中	赤化：34、破損：34	不明	
185	高座渋谷団地内	BB2UL	V	第7号礫群	3.70	2.60	29	散漫	赤化：29、破損：29	不明	
185	高座渋谷団地内	BB2UL	V	第8号礫群	3.20	1.70	28	散漫	赤化：28、破損：28	不明	
185	高座渋谷団地内	BB2UL	V	第9号礫群	1.80	1.40	20	集中	赤化：20、破損：20	不明	
185	高座渋谷団地内	BB2UL	V	第10号礫群	2.80	1.40	19	集中	赤化：19、破損：19	不明	
185	高座渋谷団地内	BB2UL	V	第11号礫群	2.40	1.70	20	集中	赤化：20、破損：20	不明	
185	高座渋谷団地内	BB2UL	V	第12号礫群	5.80	1.80	18	散漫	赤化：18、破損：18	不明	
185	高座渋谷団地内	BB2UL	V	第13号礫群	1.40	1.40	11	散漫	赤化：11、破損：11	不明	
185	高座渋谷団地内	BB2UL	V	第14号礫群	1.40	1.00	11	集中	赤化：11、破損：11	不明	
185	高座渋谷団地内	BB2UL	V	第15号礫群	2.60	1.20	10	散漫	赤化：10、破損：10	不明	
185	高座渋谷団地内	BB2UL	V	第16号礫群	3.40	1.20	10	散漫	赤化：10、破損：10	不明	
185	高座渋谷団地内	BB2UL	V	第17号礫群	1.80	1.40	8	散漫	赤化：8、破損：8	不明	
185	高座渋谷団地内	BB2UL	V	第18号礫群	2.20	0.80	6	散漫	赤化：6、破損：6	不明	
185	高座渋谷団地内	BB2UL	V	第19号礫群	1.60	0.60	5	散漫	赤化：5、破損：5	不明	
185	高座渋谷団地内	BB2UL	V	第20号礫群	0.20	0.20	2	散漫	赤化：2、破損：2	不明	
185	高座渋谷団地内	BB2UL	V	第21号礫群	1.40	0.70	5	散漫	赤化：5、破損：5	不明	
185	高座渋谷団地内	BB2UL	V	第22号礫群	0.80	0.20	4	散漫	赤化：4、破損：4	不明	
185	高座渋谷団地内	BB2UL	V	第23号礫群	5.00	2.00	4	散漫	赤化：4、破損：4	不明	
192	草柳1丁目	BB2LM		1号礫群	1.00	1.00	92	密集	赤化：31、完形： 42、付着物：1	不明	散漫に石器が分布。
192	草柳1丁目	BB2LM		2号礫群	1.00	0.50	85	密集	赤化：31、完形： 31、付着物：1	不明	散漫に石器が分布。
192	草柳1丁目	BB2LM		3号礫群	0.90	0.70	81	密集	赤化：22、完形： 26、付着物：1	不明	散漫に石器が分布。
192	草柳1丁目	BB2LM		4号礫群	1.20	0.70	55	密集	赤化：21、完形： 26、付着物：1	不明	遺物集中地点と重なる。
192	草柳1丁目	BB2L		5号礫群	0.70	0.60	11	散漫	赤化：0、完形：1、 付着物：0	不明	

遺跡No.	遺跡名	確認層位	文化層	遺構名	長軸(m)	短軸(m)	礫数 接合後数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備考 (共伴遺物等)
205	四枚畳	BIa		Cユニット 礫群	3.20	3.20	99	散漫	完形:38・破損:61	ディサイト30、砂岩24、チャート20、輝緑安山岩、珪化岩、輝石安山岩、凝灰質砂岩、輝緑岩、他	石器分布と重複。分布域の南側に1m×1mの範囲で完形礫が集中する。
262	上今泉谷	BB2LU ～ BB2U		第1礫群	1.00	0.80	41	密集		近在の河床礫と推定。閃緑岩、ひん岩、火山岩等	黒曜石製剝片:1、他不明石器:3(第1ブロック)一部に焼成・剥落あり。遺棄された礫群礫の可能性。
262	上今泉谷	BB2LU ～ BB2U		第2礫群	0.70	0.35	9	散在		瑪瑙、粘板岩、ひん岩、泥岩	配石状に分布。凝灰岩製石核:1、ホルンフェルス製切出形石器:1、瑪瑙製グレーパー:1、黒曜石製スクレイパー:1、折断剝片:1、剥片:1
262	上今泉谷	BB2LU ～ BB2U		第3礫群	0.60	0.40	22	集中		石英ひん岩	遺棄された礫群礫の可能性が指摘。不明石器:2
266	小園前畠	B2LUU		礫群	2.00	2.00	20数個	集中	詳細不明	詳細不明	ブロックAと共に。
267	谷戸田坂(相模野No.44)	BB2LU		礫群	不明	不明	10程	集中	詳細不明	詳細不明	
271	No.56(相模野No.113)	BB2UU		礫群	不明	不明	不明	不明	不明	不明	
274	地蔵坂	B2UUU	II	礫群	不明	不明	不明	不明	不明	不明	ブロックと伴うらしいが、詳細不明。
274	地蔵坂	B2LUU	III	礫群	不明	不明	不明	不明	不明	不明	ブロックと伴うらしいが、詳細不明。
276	No.4(相模野No.102)	B2UU	II	礫群	不明	不明	不明	不明	不明	不明	
277	No.43(相模野No.101・74)	BB2U	I	礫群	不明	不明	不明	不明	不明	不明	
280	相模野No.69	BB2UU		礫群							拳大円礫数個が同一レベルより出土。4～5mの間隔で2箇所確認。
281	相模野No.68	BB2UU		礫群							幅1mにわたり拳大の礫が水平に並ぶ。4m離れて人頭大の礫1個も同一レベルで確認。
282	相模野No.67	BB2		礫群							5～6個の円礫よりなる。
283	根下	L2またはB2UL	I	1号礫群	2.00	1.20	23(14)	やや密集	赤化:23、スス:6、タール:1、完形:1・破損:22	安山岩5、砂岩4、火碎岩2、珪質泥岩2、チャート1	石材の数量は接合後のもの。
283	根下	L2またはB2UL	I	2号礫群	1.30	1.10	17(13)	やや密集	赤化:25、スス:5、タール:0、完形:4・破損:13	安山岩7、砂岩2、チャート2、火碎岩1、閃緑岩1	石材の数量は接合後のもの。
283	根下	L2またはB2UL	I	3号礫群	2.20	2.10	27(24)	やや密集	赤化:25、スス:6、タール:3、完形:4・破損:23	安山岩12、砂岩7、火碎岩5	石材の数量は接合後のもの。
283	根下	L2またはB2UL	I	4号礫群	1.20	0.80	20(9)	やや密集	赤化:20、スス:6、タール:1、完形:0・破損:20	安山岩3、砂岩2、閃緑岩2、火碎岩1、珪質泥岩1	分布は1号ユニットと重複。石材の数量は接合後のもの。
284	相模野No.99	BB2U									
286	相模野No.98	BB2									水平に礫3個
290	相模野No.89	BB2UU									草柳1丁目遺跡と同一
291	大下	BB2U	I								文献不明
314	相模野No.125	BB2U M									
314	相模野No.125	BB2LU									
335	用田鳥居前	BB2L① ～ BB2L②	VI	礫群	4.40	3.30	81	やや密集	被熱痕:81	砂岩32、中粒凝灰岩31、頁岩9、細粒斑駁岩3、閃緑岩3、斑駁岩2、流紋岩1	分布は石器集中地点と重複。
338	鷹見塚	BB2L	V	礫群1	3.30	2.30	32	散漫	赤化:20、スス:20、完形:1・破損:31	粗粒凝灰岩5、中粒凝灰岩20、細粒凝灰岩2、砂岩5	石器集中1と重複。
338	鷹見塚	BB2L	V	礫群2	1.10	0.40	7	散漫	赤化:3、スス:3、破損:7	中粒凝灰岩2、細粒凝灰岩3、砂岩2	石器集中2と重複。
336	葛原滝谷	BB2L③	VI	礫群	0.80	0.60	10	密集	赤化:10・破損:10	中粒凝灰岩5、砂岩5	

遺跡No.	遺跡名	確認層位	文化層	遺構名	長軸(m)	短軸(m)	礫数 接合後数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備考 (共伴遺物等)
339	用田大河内	BB2L①	VI	第1石器集中地点	5.50	4.10	70	やや散漫	被熱痕:70	硬質細粒凝灰岩15、ホルンフェルス14、中粒凝灰岩14、流紋岩9、砂岩8、粗流凝灰岩5、細粒凝灰岩4、輝綠岩1	礫以外の出土資料は削器1点のみ。
339	用田大河内	BB2L①	VI	第2石器集中地点	3.20	2.20	48	やや密集	被熱痕:48	砂岩12、ホルンフェルス8、硬質細粒凝灰岩7、粗流凝灰岩6、中粒凝灰岩6、細粒凝灰岩3、輝綠岩3、チャート1、細粒斑欄岩1、斑欄岩1、流紋岩1	
339	用田大河内	BB2U②	VI	第5石器集中地点内第1号礫群	1.40	0.80	12	やや密集	被熱痕:12	細粒凝灰岩を主体とする。	
339	用田大河内	BB2U②	VI	第5石器集中地点内第2号礫群	1.20	0.50	11	やや密集	被熱痕:11	中粒凝灰岩・アブライトを主体とする。	
339	用田大河内	BB2U②	VI	第6石器集中地点内第1号礫群	1.50	2.10	19	やや散漫	被熱痕:19	中粒凝灰岩17、細粒凝灰岩1、斑欄岩1	礫以外の出土資料は搔器・剥片各2点のみ。
339	用田大河内	BB2U②	VI	第8石器集中地点内第1号礫群	1.30	0.90	10	散漫	被熱痕:10	硬質細粒凝灰岩・ホルンフェルス・多孔質安山岩・珪質岩など	
339	用田大河内	BB2U②	VI	第8石器集中地点内第2号礫群	1.10	0.80	18	やや密集	被熱痕:18	いずれも硬質細粒凝灰岩が主体。その他のホルンフェルス・ガラス質黒色安山岩・安山岩・閃綠岩・斑欄岩が少量伴う。	いずれも石器の分布と重複。
339	用田大河内	BB2U②	VI	第8石器集中地点内第3号礫群	1.00	0.80	16	やや散漫	被熱痕:16		
340	用田南原	BB2U～BB2L①	VI	第1石器集中地点内礫群	4.50	3.20	349	密集	被熱痕:345	砂岩121、中粒凝灰岩110、硬質細粒凝灰岩25、細粒凝灰岩19、流紋岩20、ホルンフェルス15、輝綠岩11、粗粒凝灰岩8、角閃岩7、細粒安山岩4、チャート3、細粒凝灰岩（玄武岩起源）2、細粒斑欄岩1、斑欄岩1、不明2	分布は第1石器集中地点と重複。
341	遠藤山崎	BB2UL～BB2LU	—	1号礫群	2.40	1.00	34	密集	赤化:100%、スス:79%、タル:14%、完形に近い:38(接合後52)%、破損度が高い:53(接合後45)%	主要石材は砂岩(10点)、礫岩(8点)、閃綠岩(7点)の3石材	3号ブロックの直下より検出された。
341	遠藤山崎	BB2UL～BB2LU	—	2号礫群	4.50	3.80	33	散漫	赤化:100%、スス:74%、タル:9%、破損度が高い:76(接合後68)%	主要石材は砂岩(16点)	3号ブロックの直下より検出された。北西部に0.5×0.5mの密集部あり。
342	鍛冶山	BB2LUU	I	1号礫群	0.70	0.60	84	密集	赤化:100%、黒色付着物:25%、完形(完形に近い物を含む):6割	主要石材は砂岩(55点)	2号ユニットの北東に位置する。
342	鍛冶山	BB2LUU	I	2号礫群	1.20	1.10	51	密集	赤化:100%、黒色付着物:約4割、完形(完形に近い物を含む):8割	主要石材は砂岩(29点)	3号ユニットの北東に位置する。
342	鍛冶山	BB2LUU	I	3号礫群	1.00	0.70	60	密集	赤化:100%、黒色付着物:約3割、完形(完形に近い物を含む):8割	主要石材は砂岩(37点)	2号礫群の北東に位置する。
342	鍛冶山	BB2LUU	II	1号礫群	1.30	1.10	137	密集	赤化:ほぼ全点、黒色付着物:2割以下、完形(完形に近い物を含む):65%	主要石材は砂岩(121点)	
342	鍛冶山	BB2LUU	II	2号礫群	1.70	0.80	47	密集	赤化:100%、黒色付着物:約3割、完形(完形に近い物を含む):55%	主要石材は砂岩(37点)	1号ユニットの西に位置する。
343	吉岡B区2次	BB2U～BB2L	V	礫群1	2.00	0.80	5	散漫	赤化:3、スス:3、破損:5	中粒凝灰岩1、砂岩3、頁岩1	
343	吉岡B区2次	BB2U～BB2L	V	礫群2	2.00	0.80	8	散漫	赤化:6、スス:6、完形:2、破損:6	輝綠岩3、閃綠岩2、細粒凝灰岩1、石英斑岩1、砂岩1	
343	吉岡B区2次	BB2U～BB2L	V	礫群3	3.50	2.50	76	密集	赤化:70、スス:70、完形:4、破損:72	安山岩1、輝綠岩3、粗粒凝灰岩15、中粒凝灰岩50、硬質細粒凝灰岩2、砂岩5	石器集中4と重複。
344	相模野No.138	BB2LUU									礫群2基

第2表 磨石状礫集積

遺跡No.	遺跡名	確認層位	文化層	遺構名	長軸(m)	短軸(m)	礫数 接合後数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備考 (共伴遺物等)
74	柏ヶ谷長ツサ	BB2LM	IX	配石26	0.45	0.35	5	密集	完形:5、破損:0、赤化:0、重さg:計5940g (1615g・1044g・995g・1135g・1151g)	多孔質安山岩:5	8号ブロックと重複、磨石:2。
74	柏ヶ谷長オサ	BB2LM	IX	配石32	0.40	0.30	3	密集	完形:3、破損:0、赤化:0、重さg:計2380g (736g・950g・694g)	多孔質安山岩:3	11号ブロックと重複。
74	柏ヶ谷長オサ	BB2LM	IX	配石34	0.40	0.25	3	密集	完形:3、赤化なし、重さg:計3613g (1349g・1014g・1250g)	多孔質安山岩:3	15号ブロックおよび、礫群と重複。
99	早川天神森	BB2	VI	設定無し	-	-	5		磨石2点と素材1点はまとめて出土。1m離れ磨石1点。1点は単独	安山岩(多孔質) 記述では玄武岩	第2ブロックの南端に位置する。
102	吉岡C区	BB2	B2	19ブロック磨石状石器ユニットNo.1	0.40		3 (1)	密集		安山岩	19ブロック内、磨石片3点が接合。
102	吉岡C区	BB2	B2	19ブロック磨石状石器ユニットNo.2	0.40		4	密集		安山岩	19ブロック内。
102	吉岡C区	BB2	B2	19ブロック磨石状石器ユニットNo.3	0.50		3	密集		安山岩	19ブロック内、ブロック内2点・ブロック外1点(27B)接合。
102	吉岡C区	BB2	B2	20ブロック	2.50	1.90	14	集中		安山岩	20ブロック内。
102	吉岡C区	BB2	B2	22ブロック	1.20	0.50	16	密集		安山岩	22ブロック内、ブロック外1点(27B)接合。
102	吉岡C区	BB2	B2	24ブロック	0.60		17	密集		安山岩	24ブロック内。
102	吉岡C区	BB2	B2	27ブロック磨石状石器ユニットNo.1	0.70		7	集中		安山岩	27ブロック内、ブロック内1点・ブロック外2点(24B)接合。
102	吉岡C区	BB2	B2	28ブロック磨石状石器ユニットNo.1	1.20	0.90	7	集中		安山岩	28ブロック内、ブロック内1点(No.2)と接合。磨石7、台石2、石皿1、砥石2。
102	吉岡C区	BB2	B2	28ブロック磨石状石器ユニットNo.2	0.90	0.50	5	散漫		安山岩	28ブロック内、ブロック内1点(No.1)と接合。
102	吉岡C区	BB2	B2	30ブロック	0.80	0.70	5	集中		安山岩	30ブロック内、1.5m離れて1点有り。石皿1。
102	吉岡C区	BB2	B2	31ブロック			9	拡散		安山岩	
102	吉岡C区	BB2	B2	32ブロック磨石状石器ユニットNo.1	0.70	0.60	16	密集		安山岩	32ブロック内、石皿4、敲石1、磨石11。
102	吉岡C区	BB2	B2	32ブロック磨石状石器ユニットNo.2	0.90	0.70	24 (0)	密集		安山岩	32ブロック内、台石2、磨石2?
102	吉岡C区	BB2	B2	32ブロック磨石状石器ユニットNo.3	0.90	0.40	4 (3)	集中		安山岩	32ブロック内、台石1、磨石3。
102	吉岡C区	BB2	B2	32ブロック磨石状石器ユニットNo.4	0.70	0.40	8	集中		安山岩	32ブロック内、石皿1、磨石7。
104	吉岡E区	BB2	B2	磨り石状礫の集積遺構	0.50	0.31	8	集中	ほぼ似通ったサイズの礫を用いる。磨り、敲打痕無し	安山岩(多孔質)	黒曜石剥片1点、掘り込み無し。8点中1点は、集中地點から1.6m離れた場所から出土。
116	南葛野	BB2L (BB2-3 ~4)	II	第13号拡張区内 第1号礫集中部	0.37	0.21	6	密集	完形:4・破損:2	玄質安山岩5、安山岩1	出土石器は全て「亜石器」として分類されている。接合は集中地點外出土遺物を介し、同拡張区第3号礫集中部出土資料との間で確認。

神奈川県における旧石器時代の遺構（その4）

遺跡No.	遺跡名	確認層位	文化層	遺構名	長軸(m)	短軸(m)	礫数 接合後数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備考 (共伴遺物等)
116	南葛野	L2LL～BB2U (BB2-1)	II	第15号拡張区内 第2号礫集中部	3.40	2.40	32? (本文中 は33点)	やや 密集	赤化:14、黒色付 着物:18、完形: 11 (ほぼ完形2点を 含む)・破損:21	安山岩17、玄質安山岩9、凝灰 岩4、頁岩2	9点の亜石器群を含 む。亜石器群の出土 層位はBB2層中部 (BB2-3層)より出土 のため、他とは時期 が異なる可能性あり。
120	川尻	BB2UL ～ BB2LU	V	磨石群	0.45	0.39	9	密集		多孔質・灰色の玄武岩質溶岩	他約1.5m南西に離れて 同様な3点の磨石出 土。
171	原口(本館)	BB2相 当	II	1号礫群			24	集中	完形:6、破碎:9、 不明:9、被熱:6	安山岩、中粒凝灰岩など	台石:1、磨石:7、 剥片:6、残核:1
171	原口(本館)	BB2相 当	II	2号礫群	0.55	0.35	10	密集		安山岩	磨石:10
337	山ノ神	BB2L	V	磨石敲石集中	0.20	0.10	2				磨石2と敲石1が10s 程度離れ出土。

第3表 配石

遺跡No.	遺跡名	確認層位	文化層	遺構名	長軸(m)	短軸(m)	礫数	分布	礫の状態	石材組成	備考 (共伴遺物等)
343	吉岡B区2次	BB2U ～ BB2L	V	配石1	0.3	0.1	2		赤化:2、スス:2、 完形:2	中粒凝灰岩2	

第4表 炭化物集中

遺跡No.	遺跡名	確認層位	文化層	遺構名	長軸(m)	短軸(m)	備考 (共伴遺物等)				
99	早川天神森	B2LUU	VI	II地区K・L- 27・28区 炭化物集中 箇所	3.00	3.00	径2～3程度の炭化物片が密集して分布。C14で20,490±450B.P.。他に2箇所検出しているが 詳細記述無し。				
101	吉岡B区	B2UM	B2	炭化物集中	1.62	0.88	径5mm程度の炭化物が散漫に分布				
103	吉岡D区	B2LUU	B2	炭化物集中地 点No.1	2.30	1.20	斜面地に北から南に向け傾斜して分布 (No.1～3同様)				
103	吉岡D区	B2LUU	B2	炭化物集中地 点No.2	2.50	1.20	No.2のみ分布層位が40～50s下位。地盤のズレか、報告には特に記載無し。				
103	吉岡D区	B2LUU	B2	炭化物集中地 点No.3	3.00	1.50					
103	吉岡D区	B2LUU	B2	2T-41区炭化 物集中	3.00	3.00	集中は径3mだが、南及び西に散漫に広がる斜面に北から南に向け傾斜して分布				
111	南鍛冶山	L2L ～ BB2U	—	炭化物集中 (遺物集中部 0501内)	南北 6.30 (?)	東西 3.50 (?)	石器・礫集中より約3m南に離れ、58点の炭化物が出土。礫などより若干低い位置に分布。分 布範囲は、図と数値にやや差異が認められるようであり疑問。				
111	南鍛冶山	BB2U	—	炭化物集中 (遺物集中部 0503内)	南北 1.40	東西 1.00	礫集中より5m西側より検出。礫などよりやや高い位置に分布。				
116	南葛野	BB1L ～ BB2M	II	第11号拡張区 内	3.50	2.90	同拡張区内第1石器集中部と分布が重なる。但し、石器分布の主体部からは外れている。				
266	小園前畠	B2LUU	—				ブロックを取り囲むように木炭が分布していた。				
340	用田南原	BB2U ～ BB2L ①	VI	第1炭化物集 中地点	3.60	2.60	分布は第1石器集中地点 (礫群を含む)と重複。				
340	用田南原	BB2U ～ BB2L ①	VI	第2炭化物集 中地点	3.40	2.60	分布は第2石器集中地点と重複。				

第5表 炉址

遺跡No.	遺跡名	確認層位	文化層	遺構名	長軸(m)	短軸(m)	掘込の有 無	礫数	礫分布	礫の状態	石材組成	備考
340	用田大河内	BB2L①	VI	第7石器集中 地点内 第1号炉址	0.68	0.50	有り (約 0.25m)	69	やや 密集	被熱痕:69	中粒凝灰岩・砂岩を主体とす る。	石器、炭化物粒や焼 土も分布を重ねて出 土。計測値は半裁状 態の数値。22920± 80y.BP (AMS法)

第6表 補遺（礫群）

遺跡No.	遺跡名	確認層位	文化層	遺構名	長軸(m)	短軸(m)	礫数 接合後数	分布	礫の状態	礫群石材組成	備考 (共伴遺物等)
31	花見山	LIHL	III	礫群	2.90	2.40	132	集中	完形: 51・破損: 81	砂岩64、珪質頁岩4、変質安山岩4、チャート3、ひん岩2、他	石器分布と重複。
209	川和向原	L1HLL		Dユニット 礫群	4.30	4.30	57	散漫	完形: 4・破損: 53	砂岩26、チャート15、凝灰岩12、変質安山岩3、安山岩3、他	石器分布と重複。
209	川和向原	L1HL		Iユニット 礫群	5.30	4.10	157	散漫	完形: 11・破損: 146	砂岩64、輝石安山岩33、チャート30、デイサイト13、礫岩4、他	石器分布と重複。礫の分布域内に径1~2mの礫集中2箇所あり。
320	権田原	L1HL	II	礫群							2基以上。石器分布と重複。

第7表 補遺（炭化物集中）

遺跡No.	遺跡名	確認層位	文化層	遺構名	長軸(m)	短軸(m)	備考 (共伴遺物等)			
33	二ノ丸	LIHL		炭化物集中地点			13m×1mの範囲に4箇所の炭化物集中が直線状に分布する。これらの北側10~15mから4箇所の石器集中地点が分布している。			

参考・引用文献

- 相田 薫 1988.3「第4章第4節第IV文化層」『福田札ノ辻遺跡』大和市文化財調査報告書第31集 大和市教育委員会pp.37-62
- 麻生順司 1987.12「第6節第VI文化層(B2L上部)」『長堀南遺跡発掘調査報告書』大和市教育委員会第28集 大和市教育委員会pp.198-208
- 麻生順司・戸田哲也 1987.3「第III章第1節第I文化層(L2またはB2U)」『藤沢市根下遺跡発掘調査報告書』玉川文化財研究所pp.10-19
- 麻生順司・戸田哲也 1992.3「第III章第4節第IV文化層(B2)」『神奈川県藤沢市今田遺跡発掘調査報告書』今田遺跡発掘調査団pp.79-85
- 麻生順司・中村哲也 1999.8「第II章旧石器時代」『神奈川県藤沢市鍛冶山遺跡発掘調査報告書』鍛冶山遺跡発掘調査団pp.6-16
- 小野正敏・鈴木次郎・矢島國雄 1971.3「IV遺跡の記述」『先土器時代遺跡分布調査』相模考古学研究会pp.51-52
- 織笠 昭・織笠明子・御堂島 正 1995.8「海老名市上今泉谷遺跡の再検討—先土器時代相模野第III期後葉の特異な様相を肉眼と顕微鏡で観る—」『えびの歴史 海老名市史研究』第7号 海老名市史編集委員会pp.53-78
- 笠井洋祐・白石浩之 1999.3「第4章旧石器時代B2層」『吉岡遺跡群IV』かながわ考古学財団調査報告21(財)かながわ考古学財団pp.6-426
- 栗原伸好他 2002.3「第V章第5節(6)第VI文化層」『用田鳥居前遺跡』かながわ考古学財団調査報告128(財)かながわ考古学財団pp.470-514
- 栗原伸好他 2004.3「第V章第5節(3)第VI文化層」『用田大河内遺跡』かながわ考古学財団調査報告167(財)かながわ考古学財団pp.298-461
- 栗原伸好他 2004.3「第V章第5節(3)第VI文化層」『用田南原遺跡』かながわ考古学財団調査報告168(財)かながわ考古学財団pp.319-358
- 小池 聰他 1987.10「第III章第1節先土器時代5.第V文化層」『かしわ台駅前遺跡』相武考古学研究所調査報告第3集相武考古学研究所pp.66-73
- 小池 聰 1995.9「第6節第V文化層」『県営高座渋谷団地内遺跡』県営高座渋谷団地内遺跡発掘調査団pp.84-146
- 鈴木次郎 1983.3「第6節第VI文化層」『早川天神森遺跡』神奈川県立埋蔵文化財調査報告2 神奈川県立埋蔵文化財センターpp.361-376
- 鈴木次郎・小野正敏編 1972.3「III遺物の遺存状態」『小園前畑遺跡』綾瀬町文化財調査報告第一集 神奈川県綾瀬町教育委員会pp.16-18
- 砂田佳弘 1986.7「第V章第6節第VI文化層」『代官山遺跡』神奈川県立埋蔵文化財調査報告11 神奈川県立埋蔵文化財センターpp.230-284
- 関根唯巳 1996.8「第IV章第1節2.第I文化層」『吉岡遺跡群』吉岡遺跡群発掘調査団pp.17-18
- 関根唯充・五十嵐 彰他 1992.8「第VI章第IV文化層(L2・B2U)」『湘南藤沢キャンパス内遺跡』第2巻岩宿時代縄文時代I部 慶應義塾pp.233-350
- 関根唯充・桜井準也・須田英一他 1995.3「第IV章第7節第II文化層」『南葛野遺跡』南葛野遺跡発掘調査団pp.140-273
- 堤 隆・諏訪間 順他 1997.8「7第VI文化層」『柏ヶ谷長ヲサ遺跡』柏ヶ谷長ヲサ遺跡調査団pp.56-68
- 堤 隆・諏訪間 順他 1997.8「8第VII文化層」『柏ヶ谷長ヲサ遺跡』柏ヶ谷長ヲサ遺跡調査団pp.69-90
- 堤 隆・諏訪間 順他 1997.8「9第VIII文化層」『柏ヶ谷長ヲサ遺跡』柏ヶ谷長ヲサ遺跡調査団pp.91-139
- 堤 隆・諏訪間 順他 1997.8「10第IX文化層」『柏ヶ谷長ヲサ遺跡』柏ヶ谷長ヲサ遺跡調査団pp.140-309
- 堤 隆・諏訪間 順他 1997.8「11第X文化層」『柏ヶ谷長ヲサ遺跡』柏ヶ谷長ヲサ遺跡調査団pp.310-334
- 戸田哲也・麻生順司他 2003.3「第II章第2節後期旧石器時代の遺構と遺物」『神奈川県藤沢市遠藤山崎・遠藤広谷遺跡発掘調査報告書』玉川文化財研究所pp.6-13
- 畠中俊明・亀田直美 2002.3「第IV章第2節第II文化層(B2層相当)の調査」『原口遺跡IV』かながわ考古学財団調査報告135(財)かながわ考古学財団pp.557-560
- 畠中俊明他 2003.3「第V章第5節(5)第VI文化層」『葛原滝谷遺跡・葛原下滝谷戸遺跡』かながわ考古学財団調査報告151(財)かながわ考古学財団pp.131-145
- 砂田佳弘・仲田大人 1997.3「第I章旧石器時代B2層~L2層」『吉岡遺跡群III』かながわ考古学財団調査報告20(財)かながわ考古学財団pp.7-56
- 中村喜代重 1979.3「第V章第1節先土器時代」『上和田城山』大和市文化財調査報告書第2集大和市教育委員会pp.15-23
- 服部隆博・中村喜代重 1984.3「第V章第5節第II文化層」『一般国道246号(大和・厚木バイパス)地域内遺跡発掘調査報告II』大和市教育委員会第15集pp.151-217
- 保坂康夫 1997.8「柏ヶ谷長ヲサ遺跡における礫群と配石」『柏ヶ谷長ヲサ遺跡』柏ヶ谷長ヲサ遺跡調査団pp.390-410
- 御堂島 正 1992.3「第V章第1節5第V文化層」『川尻遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告23
- 神奈川県立埋蔵文化財センターpp.59-81
- 村田良介・坂入民子 1979.9「VI礫群と炭化物」『大和市草柳一丁目遺跡』草柳一丁目遺跡調査会pp.23~27
- 望月 芳 1996.3「第5章第1節発見された遺構」『南鍛冶山遺跡発掘調査報告書』第3巻先土器時代 藤沢市教育委員会pp.91-107
- 矢島國雄 1996.3「第2節市内の先土器時代遺跡6蓼川流域の先土器時代遺跡」『綾瀬市史9別編考古』185-195
- 吉田政行 2003.3「第V章第4節第6項旧石器時代遺物群V」『吉岡遺跡群X(第一分冊縄文時代初頭~旧石器時代、自然科学編)』かながわ考古学財団調査報告153(財)かながわ考古学財団pp.128-130
- 吉田政行 2004.3「第3節旧石器時代の遺構と遺物」『山ノ神遺跡・鷹見塚遺跡』かながわ考古学財団調査報告171(財)かながわ考古学財団
- 渡辺 勲他 1971.3「第4章 配石遺構」『先土器配石遺構を持つ海老名町上今泉谷遺跡調査概要』海老名町教育委員会pp.11-12